

第1回京都市域における集中的な森林整備モデル実施検討会議 摘録

- ◆ 日時：平成29年7月10日（月） 15:00～17:00
- ◆ 場所：京都ガーデンパレス 「桜」
- ◆ 出席者：以下参照

区分	名前（敬称略）	所属
委員	青合 幹夫	京都府森林組合連合会 代表理事会長
	北川 義晴	京北森林組合 代表理事組合長
	田中 俊夫	京都市森林組合 代表理事組合長
	長島 啓子	京都府立大学生命環境科学研究科 准教授
	長谷川 尚史	京都大学フィールド科学研究センター 准教授
	四辻 均	京北木材業協同組合 代表理事
事務局	納谷担当部長	京都市農林振興室
	川田課長	京都市農林振興室林業振興課
	中筋課長補佐	京都市農林振興室林業振興課
	埜村担当	京都市農林振興室林業振興課
	石浦担当課長	京都市農林振興室京北農林業振興センター
	中西担当	京都市農林振興室京北農林業振興センター

- ◆ 当日資料：以下参照

資料No.	資料名
	配布資料一覧
資料1	次第
資料2	配席図
資料3	委員名簿
資料4	検討会議開催要綱
資料5	検討会議の進め方について
資料6	森林所有者経営意向調査等について
資料7	市内の森林資源量等について
資料8	モデル実施の取組（案）について
参考資料	京都市域における集中的な森林整備に向けた取組について （提言）【概要版】

(委員からの意見等)

- **森林所有者経営意向調査等について**
 - ・ 森林所有者経営意向調査について、経営意向の項目だけでなく、航空写真等の活用など、境界確認の方法についても調査すべき
 - また、相続手続きを行わない森林所有者も多数存在すると国が発表しているが、実態を把握するため、相続の手続き状況を問う項目も追加すべき

- **市内の森林資源量等及びモデル地区候補地について**
 - ・ 森林所有者経営意向調査等を実施するモデル候補地は、資料7（人工林面積や森林所有者数、森林組合からの聞き取りにより作成）の地域です承

- **モデル実施の取組（案）について**
 - ・ 森林資源情報システムの導入について、既に導入している自治体では、現場でうまく活用できていない事例が多い。現場で活用しやすい新たなシステムを構築するなど、現場主体のシステムとして導入すべき
 - ・ モデル実施では、主伐による森林資源の循環利用を目的としている。主伐となると経済行為であるため、境界の確認はしっかりと行うべき
 - ・ 財産権、境界、個人の尊厳の問題が大きいので、解決する為に、新たな予算措置を考え直すべき
 - ・ 境界確認については、所有者が現地へ出向いて確認する従来の方法ではなく、より簡易的な方法を検討し、モデル的に実施することも検討すべき
 - ・ 今後の施業を円滑に進めるため、森林経営計画の樹立状況等、行政が保有している情報を整理し、活用すべき
 - ・ 新たな取組であるため、費用もかかる。行政も覚悟をして取り組むべき